

朝間義隆 監督

脚本 朝間義隆 桐浦政男 撮影 花田三史 製作 名島徹
●主題歌 恋不思議(唄) 海援隊 栄町リトルレコード

武田鉄矢／伊藤 蘭

別れよう——でも駄目だ!!
口惜しいけれど俺、惚れてるんだあいつに……

俺とあいつの物語



松竹映画

8月8日(土)2本立公開!

音協特別鑑賞券 ¥1,050

最新27作

脚本＝山田洋次 次郎 朝間義隆 夫 純 清
撮影＝高羽直 本 哲 夫
音楽＝島津 生 哲 雄
製作＝佐生 哲 雄

山田洋次＝監督・原作



男はつらいよ

浪花の恋の寅次郎

松竹映画

さくら、兄ちゃん
夢を見ているのかねえ
通天閣の
ネオンの下を
飛びきりの
上方芸者と
そぞろ歩きなんて……



渥美 清
宮川 千恵子
松坂 慶子
下條 正巳
太田 幸子
佐藤 信子
前田 秀雄
吉岡 秀隆
大笠 智
正司 照
初音 礼子
芦屋 雁之助

銀座松竹	(541) 1786	銀座文化・1	(561) 0707	浅草松竹	(841) 2022	池袋松竹	(971) 1077
新宿松竹	(354) 2414	上野松竹	(831) 4963	渋谷松竹	(400) 1477	歌舞伎町新宿座	(209) 4338
池袋日勝	(971) 9437	江東キンゲキ	(631) 3121	蒲田ロキシー	(738) 0010	吉祥寺松竹	(48) 5521
松竹大宮ロキシー	(42) 5321	川崎ロイヤル	(233) 9381	相鉄中央	(311) 5573	横浜松竹	(261) 2790

最新27作

浪花の恋の寅次郎

- かいせつ

協	照	美	音	脚	監	原	製
力	明	術	楽	本	督	作	作
・	・	・	・	・	・	・	・
鈴木	青	山	朝	山	山	佐	島
木	出	川	間	田	田	生	津
・	・	・	・	・	・	・	・
好	直	義	洋	洋	洋	哲	
文	純	隆	次	次	次	雄	清
業	・	・	・	・	・	・	・

昭和56年の夏、第27作目の「男はつらいよ」シリーズは題して「男はつらいよ 浪花の恋の寅次郎」マドンナには、今もっとも輝いている女優・松坂慶子をむかえましている。

「五番町夕霧楼」(55年松竹)の夕子から「青春の門」(56年東映)のタエと着実に大女優への道を歩きはじめている女優・松坂慶子をむかえましている。

「あんた、おふみさんじゃねえか」 寅さん！ うれしく懐かしい再会である。

その晩は寅の宿で楽しいパーティ。気のいいホテルの主人喜介も入ってドンチャンさわぎである。酔いが回ったのか、寅はゴンと横になり、スヤスヤと寝息をたて始めた。その寝顔を見ながら、ふみは寅の優しき気づかいを知り、ふと胸を衝かれるのである。

ある日のこと。ふみの身上話から、ふみには十何年前に生き別れたたつたひとりの弟がいることを聞かされた寅は、一生懸命会いに行くことを勧めた。翌日、二人はかすかな便りをたどってふみの弟の居場所を探しあてた。しかし、そこにはすでに弟はいなかった。ほんのわずか前、心臓の病気で他界していたのである。茫然としているふみに寅もまたかけることはもなかった。

その晩、寅のホテルにふみがやってきた。ひどく酒に酔っている。寅の膝に頭をつけて肩をふるわせながらふみは大声で泣いた。そのまゝの姿勢で眠ってしまったふみに寅はそつとフトンをかけてやるのだった。

美しくもはかない思いを胸に、寅は柴又へ帰ってきた。だがどうしてもふみのことが忘れられない。旅へ出れば、また逢えるかも知れない、カバンを持って店を出ようとした時、ふみが突然やってきた。

別れよう——でも駄目だ!!
口惜しいけれど俺、惚れてるんだあいつに……

俺とあいつの物語

■ スタッフ

歌	●主題歌「恋不思議」	音	撮	監	脚	製
海援隊（ポリドール）	楽	術	影	督	本	作
	森	花	朝	梶	朝	名
	田	野	間	浦	間	島
	公	尹	義	政	義	
	一	孝	史	隆	隆	徹

- かいせつ

武田鉄矢は、昨年の「最も愛される人気タレント」のベストテン（NHK調査）に選ばれ今や若い男女にとつては「頼られる兄貴」として爆発的な人気を誇っています。

映画、テレビでの幅広い活躍で益々その「地方性」「喜劇的個性」に磨きをかけ今や喜劇を演じられる若手スターのナンバーワンと云えます。

その武田鉄矢が松竹で主演する第

その武田鉄矢が松竹主演する第三作目です。そして、武田鉄矢のお相手には伊藤蘭が抜てきされました。彼女は「ヒポクラテスたち」や「男はつらいよ・寅次郎かみのお歌」で女優としての素質を高く評価され、今更現代女性がかかえている悩みつまり家庭と仕事との両立に苦しむながらも自分の生き方を見出している若い若い女性の心理的な葛藤を体当りて演じています。

脚本は「朝間義隆と梶浦政男の共同執筆。監督は、武田鉄矢のコンビで「俺たちの交響楽」では工業都市、川崎を「思えば遠くへ来たもんだ」ではみちのくの城下町、角館（かどか）の）で」を舞台に、武田鉄矢の個性を存分に引き出した朝間義隆が当然、今度は函館の四季のなかで、構想も新たに「夫婦の新しい愛のかた」にアタックしております。

芝居の立役者のような名前の南原幸四郎（武田鉄矢）は函館の郵便配達夫で、ひと目惚れした純子（伊藤蘭）と平凡だが、幸福な新婚生活を送っている。

その「幸福」が雪どけとともに、純子のひと言で突然ゆらぎ出したかた。というのは、純子が「OK牧場で働きたい！」と言いつりだからだ。OK牧場とは名ばかりで、鳴海育哉（山本圭）である。恋人同志だった頃の幸四郎と純子はよくそこへ遊びに行き、純子はその牧場に強烈な魅力を感じ、牧場で働きたいと思うようになったからだ。

「俺たちの生活はこうなるんだ！」とつい怒鳴りたくなる幸四郎だったが、人の良い幸四郎のこと、話し合いは平行線をたどるばかりであった。

だが、ある日、とうとう純子は置き手紙を残して、牧場に行ってしまった。純子にとつて牧場の生活は想像以上に厳しく、つらい毎日であった。日曜日など、家に帰つて、幸四郎と団らんをの夜をと思う時もあつたが、それくら出来ない、今の生活である。

春ももうらな一日、幸四郎がぶらりと牧場を訪ねてきた。純子は久しぶりに愛する彼をみた。幸四郎は初恋の思いが走つた二人は強く抱きあつた。まだ雪をかぶっている山々の雪も溶けるようなあたたかい、幸せな二人の姿であつた。

幸四郎にわずかな夏のボーナスが出てから数日後、純子は突然帰つてきた。幸四郎は飛び上らんばかりに喜んだが、実は純子の目的は幸四郎ではなくボーナスであつた。二人で貯めた金を経営不振の牧場の資金として貸してくれと言つたのだつた。幸四郎は、牧場の金策に來た純子に、とうとう堪忍袋の緒が切れて、別れようと言ひ出した。純子は泣きながらアパートを出ていった。

その後の幸四郎の生活は荒れる一方だつた。仕事は休む、酒にはおぼれる、純子への想いを断つためにやりたい放題で、あげくの果て、女のコをひっかけるまでの行為に及んだ。だが、所詮はついてない男であつた、幸四郎のやりきれない自暴自棄の毎日は続いてない男であつた。折しも折、OK牧場の鳴海から、純子が倒れたという知らせが届いた。